

国境なき医師団の活動

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

国境なき医師団とは

国境なき医師団(Médecins Sans Frontières: MSF)は国際的な非営利の民間援助団体(NGO)である。1971年にフランスで設立され、現在日本を含む18か国に支部が存在する。「天災、人災、戦争など、あらゆる災害に苦しむ人々に、人種、宗教、思想、政治すべてを超え、差別することなく援助を提供する」ことを憲章に掲げ、年間約3,000人のボランティアと13,000人以上の現地スタッフが、世界約80か国で医療援助活動を行っている(次ページ地図参照)。

MSFが援助の対象としているのは、最も弱い人々、最も援助を必要としている人々である。またMSFを特徴づける性質として独立性、中立性、公平性があげられる。政治的な影響力によって活動を制限されることなく独立した意思決定を行うこと、武力紛争下の地域などでは紛争当事者のどちらに対しても中立であること、援助を必要としている人に対しては人種や宗教・思想信条に関わらず公平に援助を行うこと、これらはMSFが活動を行う上で基本としている考え方である。

世論に訴える

援助活動の現場では、虐殺や強制移住など激しい人権侵害を目の当たりにする場合もある。MSFはそのようなとき、医療だけでは人々の命を救うことができない現状を、訴える手段を持たない人人に代わって国際社会に証言する。これまでにアフガン難民、アンゴラの飢餓、チェチェン難民の強制移住、コンゴ民主共和国の内戦など、様々な調

査レポートや証言集を発表してきたほか、国連の会議や記者会見などの場で積極的に発言している。

MSFの活動地

MSFが活動している場所は、武力紛争地、コレラ・マalaria・エイズなど感染症が流行している地域、難民・避難民キャンプ、自然災害の発生地、貧困が著しく医療システムが機能していない地域などがあげられる。こうした地域に暮らす人々は、医療から隔絶され基本的な健康を保つことのむずかしい厳しい状況下での生活を強いられている。以下に近年のMSF医療援助プログラムの具体例を挙げてみる。

飢餓への対応：アンゴラ

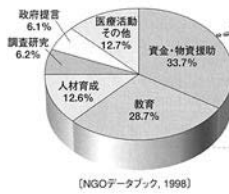
アンゴラでは2002年、14年間にわたって続いた内戦が終結し、それまで援助関係者が全く入ることのできなかった地域に立ち入ることができるようになった。MSFは早速調査団を派遣し各地の状況調査を行ったが、その結果、広大な地域にわたって大規模な飢餓が発生していることが明らかになった。MSFはつぎつぎに栄養治療センターを新設し、最も命の奪われやすい5歳以下の乳幼児を中心に栄養障害の治療や食糧配給を行った。

エイズ治療：タイ

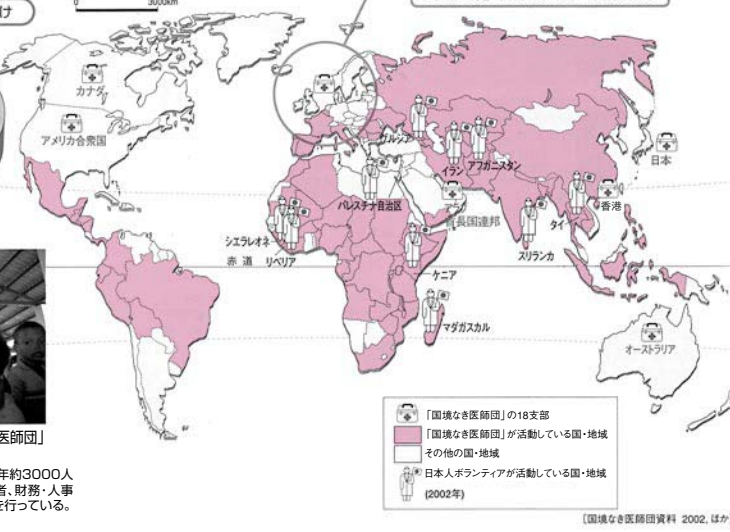
HIV / エイズの感染が世界的に拡大しているが、治療には高額のコストがかかり、薬に手の届かない多くの貧しい人々が命を落としつづけている。エイズ患者の治療とケアに力を入れているMSFはタイにおいても、適切に服用すれば寿命を延ばすことのできるARV(対レトロウイルス薬)による治療法を導入している。これまでに他のNGO

② 現地に根ざしたNGOの活動 世界で活躍する「国境なき医師団」の例

日本のNGO活動団体のうちわけ



▲ スリランカで活躍する「国境なき医師団」の日本人ボランティア(1994年)
1971年にフランスで設立され、毎年約3000人のボランティア(医療者、物資担当者、財務・人事担当者)が世界80か国で援助活動を行っている。



帝国書院版「標準高等地図 新訂版」p.109

やタイ政府と協力し薬価の引き下げを実現させるためのキャンペーンや、現地の医療関係者を対象にHIV/エイズへの誤解や偏見を正しエイズには治療法があることを訴えるキャンペーンを行って成功してきた。またエイズ患者がケアセンターなどでカウンセラーとして働けるようトレーニングも行っている。

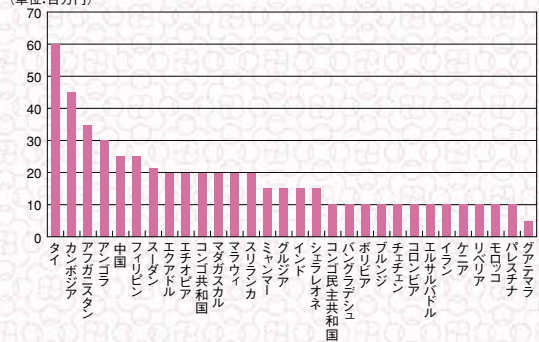
MSF日本の活動

国境なき医師団は、医療プログラムを実施する5つのオペレーション支部（フランス、ベルギー、オランダ、スイス、スペイン）とこれを支えるパートナー支部から成る。国境なき医師団日本はパートナー支部であり、日本国内で、1.プログラム参加者の募集、2.証言・広報活動、3.募金活動を行っている。また国内の野宿者の健康問題に注目し、医療支援活動を続けている。

日本にはまだボランティア休暇制度を定めた法律が存在せず、また企業などで個別に制度を設け

ている組織もあるがごく少数であり、ボランティアとして参加したくても長期間の活動になると仕事をやめざるを得ない状況である。MSFからの派遣期間は6か月から1年が標準であり、参加者を増やしていくためには、MSFの

2002年 国境なき医師団日本の国別支援実績



活動に対する社会一般の理解をさらに深め支援を得ることが必要である。

また、医療チームは多国籍で、仕事は英語ないしはフランス語で行われる。日本人にとってはどちらも外国語であり、活動に参加するためにはこの言葉の壁を乗り越えなければいけないことも確かである。